

医事史料としての『吾園叢書』

—2016年10月例会報告より—

三崎 裕子

埼玉県所沢市

『吾園叢書』は明治時代の法律家、政治家であった細川潤次郎の1873(明治6)年から1883(明治16)年までの10年間にわたる公私の記録文書を、細川本人がまとめ、『吾園叢書』と名付けた和綴本である。おおよその年次によって52冊に分けてまとめられたこの叢書は、細川潤次郎が1880(明治13)年2月ころから1883(明治16)年までの間、内務省衛生局の諮問機関であった中央衛生会の会長であったため、当該時期の医事衛生関係の貴重な史料が数多く含まれている。

『吾園叢書』の来歴等については、福島小夜子氏の論文「ある資料の運命——細川潤次郎旧蔵『吾園叢書』のこと——」(『びぶろす』1968; 19(11): 15-19)に詳しいが、それによると本叢書は、1943(昭和18)年ごろ嗣子細川一之助氏より現在の法務図書館に寄贈されたものであるという。しかし第二次大戦中に寄贈されたこの叢書は、戦後のドサクサに紛れ、その存在も忘れ去られ、ようやく福島氏の論文が書かれた1968(昭和43)年に至って、その補修整理が終わり、全体像が明らかになったという。福島氏によれば、一部の法制史研究者の間では知られていたという本叢書であるが、法務図書館での整理後も一般に広く知られることはなかった。しかし近年の明治期史料のデジタル化により、本叢書も2010(平成22)年12月にデジタル化され、その後2012(平成24)年5月28日より国立国会図書館内でデジタル資料としての閲覧が可能となった。

筆者は、明治女医関係史料を国会図書館で調査した際に、この『吾園叢書』を知り、明治女医誕生に関わる非常に貴重な史料が本叢書に含まれていることを発見した。それについては本誌第61巻

2号に「近代の明治女医」誕生の経緯と背景——『吾園叢書』所収の1881(明治14)年「中央衛生会臨時会議事録」と内務省衛生局史料より——」で詳しく報告したが、『吾園叢書』に含まれている他の多くの当該時期の医事史料については、現在までのところ、詳しい報告がなされていない。筆者が概観したところ、細川潤次郎が会長を務めていた中央衛生会関係史料のみならず、1880(明治13)年に制定された「伝染病予防規則」、1886(明治19)年制定の「日本薬局方」、さらに医師資格に関する資料、焼場、水道、アヘンなど多岐に渉る医事衛生関係史料がこの叢書には含まれている。今回の報告では、『吾園叢書』に含まれる医事衛生関係史料をピックアップし、その中の内務省中央衛生会関係史料の大凡の内容と、他の二三の史料についてスライドを用いて説明した。

中央衛生会関係史料でまず注目されるのは、「衛生会年報上書并沿革概記」である。この史料からは1879(明治12)年7月の中央衛生会成立の経緯と初期の会議の進行状況が知られ、同年のコレラ危機における日本の衛生行政を手取るように見ることができる。さらに中央衛生会の会議事録も重要である。書記の手でまとめられた1880(明治13)年の8回、1881(明治14)年の11回の会議の記録が本叢書に残され、そこには議題、会議の日時、出席者あるいは欠席者が記録され、会長以下、委員各自の発言が記録されている。本叢書に残されている議事録は、該当年のすべてのものではないが、例えば発行前の「伝染病予防規則」の修正や「薬局方」制定にあたり、どのような点が問題となり、誰がどのような発言をしていたのかが示されている。

中央衛生会の発足時の会長は森有礼で、その後1879(明治12)年10月に佐野常民に代わり、さらに1880(明治13)年2月に、本叢書の編者である細川潤次郎が会長に就任している。発足当初の委員は内務省衛生局長長与専齋、陸軍軍医総監松本順、陸軍軍医監林紀、海軍軍医総監戸塚文海、一等侍医池田謙齋、大学医学部御雇ドイツ人医師ベルツ、陸軍省御雇オランダ人医師ブッケマ、海軍省御雇イギリス人医師アンデルソンで、加えて内務省小書記今村和郎、権中警視石井邦猷、大学医学部三宅秀も任命された。また「薬局方」の審議が始まってからは、京都、横浜司薬場の監督オランダ人ゲールツ、エーキマン、さらに大学医学部製薬化学教師ランガルトも加わっている。このような、まさに明治医学界を代表する人物たちの発言を、中央衛生会の議事録で知ることができるのである。

中央衛生会以外の史料について、報告では「薬局方」が中央衛生会預かりになる前の「日本局方修正第一～三會」、明治初期の漢方医存続問題に関わる史料などに言及した。漢方医に関する史料は、長与専齋の自伝『松香私志』の記載と関連し、さらに同書に記載されている「○○○殿下への奉答」の下書きと推測される「医師試験方実施に関する久邇宮殿下の書簡に対する弁明」の存在は、中央衛生会を実質的に采配する長与専齋の手腕を伺わせる。このように、いくつかの史料は、『松香私志』や松本順の『蘭蘭自伝』の記述に呼応することも付記しておく。

『吾園叢書』記載の医事史料が、各分野において広く活用されることを願い、参考までに本報告で用いた一覧表『吾園叢書』所収医事関係史料(未定稿)及び資料1より抜粋した「中央衛生会関係史料」を付す。

資料1

『吾園叢書』所収医事関係史料(未定稿)

本表は、法務図書館編『吾園叢書目録』(『図書月報』第20巻第1号抜刷1969.9)より医事関係史料を抜粋して作成した。分類は筆者によるもので、「冊」は『吾園叢書』の冊数、「号」は『吾園叢書目録』の号数、「内容」は『吾園叢書目録』の記載をもとに記した。

記載年は外国資料は西暦、その他はすべて明治とする。

史料番号	分類	冊	号	内容
1	個人	9	4	シーボルト氏所持の独逸身元札について
2	意見書	16	5	建議(中央衛生会の組織につき畠山重明等より細川会長宛)
3	中央衛生会	16	9	中央衛生会予算
4	中央衛生会	16	10	衛生会年報上書并沿革概記
5	個人	17	1	別爾都氏日本鉅泉論序(細川潤次郎による)
6	個人	17	2	ベルツ氏日本鉅泉論第一編全、第二編全
7	医師法	17	3	医師開業試験法(9年1月12日内務省乙第5号達) 薬舗試験の儀達(9年1月25日)
8	医師法	17	4	8年4月より13年2月12日まで使府県免許医員表(各県員数表)
9	医師法	17	5	医師試験規則関連達・伺・指令等(8年~12年)
10	外国	17	6	合衆国中央衛生局申報第一、合衆国中央衛生局申報第二(1879年4月7日発行)
11	伝染病	17	7	流行性伝染病予防法草稿(発疹室扶私、痘瘡、赤痢)
12	中央衛生会	18	1	中央衛生会議事章程、議事附則
13	薬局方	18	2	日本薬局方選定之儀ニ付伺
14	薬局方	18	3	日本薬局方壺 ABの部
15	薬局方	18	4	日本薬局方稿本第一号(「柴田承桂校正ヲ試ミタル分」と掛紙)
16	中央衛生会	18	5	中央衛生会臨時會議(医術開業試験ニ特許ヲ要スルノ件 東京府申請)
17	中央衛生会	18	5	中央衛生会明治14年第三會議事録(薬局方)
18	伝染病	18	6	コレラ療法について高知県より衛生局長へ伺(13年6月3日)、衛生局長代理回答
19	薬局方	18	7	日本局方修正第一會~第三會(12年1月18日、25日、31日)
20	焼場	18	8	御達案(8年内務省乙80号達 焼場取扱方心得書第3条改正)(朱入)
21	中央衛生会	18	9	中央衛生会明治14年第二會議事録(薬局方)

22	焼場	18	10	内務省達乙第80号焼場心得（8年6月24日）
23	中央衛生会	18	11	中央衛生会巡回内規
24	アヘン	18	12	アヘン規則会議案（13年9月11日）（1）内務省衛生局長代理より中央衛生会長宛依頼書
25	アヘン	18	12	同上（2）甲号阿片売渡規則
26	アヘン	18	12	同上（3）乙号阿片売買並製造規則
27	アヘン	18	12	同上（4）太政官達 鴉片煙草取締規則（3年8月7日）
28	アヘン	18	12	同上（5）太政官布告21号 薬用阿片売買並製造規則（11年8月9日）
29	中央衛生会	18	13	中央衛生会員慰勞金御下与之儀
30	医師法	18	14	医師試験法実施に関する久邇宮殿下の書簡に対する弁明
31	伝染病	18	15	伝染病予防規則，地方衛生会規則中改正上申関係，衛第6350号（衛生局長長と専齋より中央衛生会長細川潤次郎宛 13年10月13日）
32	アヘン	18	16	阿片製造販売規則1～17条
33	中央衛生会	18	17	衛生局長長と専齋から細川会長宛 伝染病予防規則中文言について（衛・第68*7号），伝染病予防規則改正上申案（*は不明）
34	伝染病	18	18	間歇熱予防方之儀ニ付上申（静岡県令大迫貞清 13年10月20日）
35	中央衛生会	18	19	14年度経費予算主意概略
36	医師法	19	1	漢医学学校設立且漢医開業免許等之儀ニ付請願候書付（平山省齋他6名署名捺印）
37	医師法	19	2	漢医学小試験仮規則
38	中央衛生会	19	3	中央衛生会職員
39	中央衛生会	19	4	明治12年中記録類（開設以来の資料，12年中の中央衛生会議題1-32会，臨時会）
40	医師法	19	5	（地方衛生会採用医師）審議情況（1-8条，12年以後）
41	医師法	19	6	内務省達乙第11号従来開業医他管へ転籍寄留ノ事（13年3月4日）
42	伝染病	19	7	内務省達 伝染病予防ニ付東京警視本署主管之条項（内務省達 11年6月）
43	中央衛生会	19	8	中央衛生会13年第一会議事録（職制・地方衛生吏員）
44	中央衛生会	19	8	中央衛生会13年第二会議事録（火葬設置法）
45	中央衛生会	19	8	中央衛生会13年第三会議事録（伝染病予防規則修正）
46	中央衛生会	19	8	中央衛生会13年第四会議事録（伝染病予防規則修正）
47	中央衛生会	19	8	中央衛生会13年第五会議事録（伝染病予防規則修正）
48	中央衛生会	19	8	中央衛生会13年第六会議事録（伝染病予防規則修正）
49	中央衛生会	19	8	中央衛生会13年第七会議事録（伝染病予防規則修正）
50	中央衛生会	19	8	中央衛生会13年第八会議事録（伝染病予防規則修正）
51	外国	19	9	1879年独逸国衛生四半年報抄訳（意大利国事務施行の概略共）
52	医師法	19	10	意見書草稿（地方衛生会委員タル可キ医師ハ広く一般開業医師ヲ公撰セシム可キノ事由概略）
53	伝染病	19	11	東京府達 甲第128号 東京府ヨリ警視庁へ移管ノ条項（9年10月30日，薬品取締規則）
54	伝染病	19	12	内務省達49号流行病貧民施治概則（8年4月8日）
55	地方衛生	19	13	衛生事務担当吏員撰定之儀府県へ御達伺（11年5月20日）
56	中央衛生会	19	14	中央衛生会職制并章程（12年7月21日 内務卿 伊藤博文）
57	中央衛生会	19	14	中央衛生会職制及事務章程（上の続き 12年12月27日 太政大臣 三条実美）
58	意見書	20	1	女医開業許否ノ議（中金正衡稿）
59	外国	20	2	英国衛生会条例要録，亜米利加衛生会条例要録（中金閔・朱入掛紙）
60	中央衛生会	20	3	中央衛生会14年6月20日臨時会（女医開業可否につき）
61	水道	20	4	水道会社規定議案
62	中央衛生会	20	9	中央衛生会会員宿所（明治14年か？）
63	中央衛生会	20	9	中央衛生会14年4月25日第十六会議事録（薬局方）
64	中央衛生会	20	9	中央衛生会14年5月2日第十七会議事録（薬局方）
65	中央衛生会	20	9	中央衛生会14年5月9日第十八会議事録（薬局方）
66	中央衛生会	20	9	中央衛生会14年5月18日臨時本会議（発疹チフス）
67	中央衛生会	20	9	中央衛生会14年6月13日第廿三会議事録（薬局方）
68	中央衛生会	20	9	中央衛生会14年9月19日臨時会（コレラ対策）

69	水道	20	10	府下用水不潔, 衛生土木科創設に関する建言(1880年3月12日 理学士英国学士院会員 機械工学教授 ゼイ・イ・ユーエング)
70	衛生	20	13	河豚毒の説及びその中毒療法
71	外国	20	14	英国衛生会(中央衛生会との比較), 亜米利加衛生会(1879年3月3日 布告による組織抄訳)
72	中央衛生会	20	15	中央衛生会14年8月19日臨時会(コレラ対策)
73	個人	20	16	目下東京ニ流行スル発疹瘰癧ノ略説(ドクトルベルツ氏述)
74	意見書	21	1	虎列拉病耐忍法について(和歌山県医生山羽良道より細川潤次郎宛)
75	中央衛生会	21	2	1月31日開会(三重県伺埋葬火葬場開設ノ儀 明治14年?)のための演説準備原稿
76	医師法	21	3	医師[其他]営業規則(中金正衡による草稿か?)
77	伝染病	21	4	虎列刺病耐忍療法(細川述, 13年6月3日朱入)
78	個人	21	5	中金正衡編 衛生論上中下(15年4月)
79	中央衛生会	21	6	埋葬規則御制定有之度建議草稿(中金正衡稿, 細川会長から内務卿宛)
80	個人	21	7	中金正衡稿 埋葬略説(朱入掛紙)
81	外国	21	8	仏蘭西大学教官ベックレル氏著述公私衛生原論第6版(1872)略目
82	個人	21	9	大日本衛生統記(中金正衡稿, 細川会長宛 15年4月25日)
83	外国	21	10	仏蘭西衛生字書抜粋(中金正衡編, 15年5月21日)
84	伝染病	22	1	流行性伝染病予防法心得書(朱入)
85	意見書	22	2	衛生事業ニ付き意見書
86	伝染病	22	3	避病院ヲ設クル事(草稿)
87	伝染病	22	4	伝染病予防規則(朱入)
88	伝染病	22	5	流行性伝染病予防法心得書(緒言及び20, 27, 28, 49, 63, 70, 71条につき)
89	外国	23	1	合衆国中央衛生局発行「府邑衛生測量(検閲)尋問條目」
90	外国	23	2	仏国衛生法
91	伝染病	23	3	獸類伝染病予防法, 同外国例規
92	外国	23	4	合衆国中央衛生局ヨリ州府邑衛生官へ回達(未完), 続き(完)
93	外国	23	5	紀元1879年6月26日大統領認可合衆国ニ伝染病侵入ヲ防遏スル条例及ビ其施行ニ付中央衛生局ノ定立スル規則
94	中央衛生会	24	1	中央衛生会職制(14年4月までの変更)
95	地方衛生	24	2	区町村衛生委員設置方東京府達(区町村衛生委員事務章程)
96	医学	24	4	脳について
97	医学	24	5	神経概論
98	医学	24	6	タルジュー氏衛生詢府伝染流行病篇抜粋並病院篇抜粋(草稿)
99	伝染病	24	7	本邦明治10年避病院設立今日ニ至ル迄ノ略記(朱入)
100	外国	24	8	死亡統計(英独書より抜粋, 未完稿)
101	中央衛生会	24	10	伝染病予防規則第7条改正会議ノ件ニ付各員へ御回文案
102	地方衛生	24	11	御諮問略案(衛生区域ヲ制定スル事他, 草稿案)
103	伝染病	33	16	牛疫関係内務省達(9年2月29日, 3月7日, 8月17日), 家畜伝染病処分規則(草稿, 朱入)
104	地方衛生	33	17	郡区医及衛生委員設置概則並身分取扱之儀ニ付上申(郡区医及衛生委員設置概則制定布達案)
105	伝染病	33	18	疫病ベスト考(恙虫病との比較考察あり)
106	衛生	33	19	出産死亡婚姻ノ統計ヲ確實ニシ衛生上ノ基礎ヲ立ル事急務トスルノ考案
107	中央衛生会	33	20	歯科医開業等ニ付別紙ノ通太政官へ伺案(16年7月5日 衛生局長長与専齋から中央衛生会長細川宛)
108	病院	33	23	千葉医学校附属病院外来及入院患者平均表, 一ヵ年間眼病患者表, 内科の患者類別表, 外科の患者類別表(15年7月~16年6月)

資料2

中央衛生会関係史料（資料1より抜粋）

*年はすべて明治

A：中央衛生会沿革・組織

資料番号	分類	冊	号	タイトル	内容
1	職制	19	14	中央衛生会職制并章程	12年7月21日達
2	職制	19	14	中央衛生会職制章程（上の続き）	12年12月27日太政大臣達
3	式制	24	1	中央衛生会式制	14年4月までの変更
4	議事章程	18	1	中央衛生会議事章程	議事章程1-8, 議事附則
5	内規	18	11	中央衛生会巡回内規	地方巡回者の検察標準
6	12年中の記録	19	4	明治12年中記録類 次ノ概目	開設以来の資料, 12年中の議題（1-32会, 臨時会）
7	沿革	16	10	衛生会年報上書并沿革概記	12年7月16日～13年11月までの沿革
8	住所録	20	9	中央衛生会会員宿所（明治14年か？）	松本, 戸塚, 林, 三宅, 高木, 今村, 田辺, ベルツ, ブッケマ, 永松, 柴田, ゲルツ
9	職員名簿	19	3	中央衛生会職員	13年12月現在会員名

B：議事録

資料番号	分類	冊	番号	タイトル	内容
1	職制・地方衛生吏員	19	8	明治13年第一会議事録（1月16日）	太政官達等の英訳について
2	火葬設置法	19	8	明治13年第二会議事録（1月22日）	火葬法, コレラについての議論のため外国委員に諮る
3	伝染病予防規則修正	19	8	明治13年第三会議事録（1月29日）	1, 2条につき詳しい議論, 中央衛生会設立後の修正布告のため
4	伝染病予防規則修正	19	8	明治13年第四会議事録（2月6日）	前回の続き, 発症時の届け出, 軍との関係-4-6条修正
5	伝染病予防規則修正	19	8	明治13年第五会議事録（2月18日）	6-18条に関するベルツ, ブッケマの意見聴取
6	伝染病予防規則修正	19	8	明治13年第六会議事録（2月26日）	6-18条, 朱筆入り
7	伝染病予防規則修正	19	8	明治13年第七会議事録（2月26日）	9-14条, 通行, 避病院, 消毒法, 衛生委員
8	伝染病予防規則修正	19	8	明治13年第八会議事録（3月4日）	4, 10, 11条
9	薬局方	18	9	明治14年第二会議事録（1月17日）	薬局方の外国向け体裁, 試験法, 重量単位等
10	薬局方	18	5	明治14年第三会議事録（1月24日）	薬局方日本本にイロハを用いる, ゲールツ起草本を英独に翻訳するか否か
11	医術開業試験に特許を要する件 東京府申請	18	5	明治14年臨時会議事録（2月8日）	単科医師の試験の軽減につき東京府の申請
12	薬局方	20	9	明治14年第十六会議事録（4月25日）	追加薬品目録
13	薬局方	20	9	明治14年第十七会議事録（5月2日）	記載薬品の選定
14	薬局方	20	9	明治14年第十八会議事録（5月9日）	記載薬品につき
15	発疹チフス	20	9	明治14年臨時本会議（5月18日）	ベルツ発議発疹チフス流行予防等
16	薬局方	20	9	明治14年第廿三会議事録（6月13日）	薬品表記, 目録表記
17	女医開業	20	3	明治14年臨時会議事録（6月20日）	女医開業免許可否についての議論
18	コレラ	20	9	明治14年臨時会議事録（8月19日）	鹿児島のコレラ予防手続き
19	コレラ	20	15	明治14年臨時会議事録（9月19日）	大阪難波掘割使役人コレラ罹患等

C: その他

資料 番号	分類	冊	番号	タイトル	内容
1	伝染病予防規則修正	18	15	衛・6350号:伝染病予防規則,地方衛生会規則中改正(13年10月13日)	伝染病予防規則2,3,4,19条改正につき中央衛生会の意見を求める
2	伝染病予防規則修正	18	17	衛・第68*7号:衛生局長長と専齋→細川会長宛 伝染病予防規則中文言について(13年11月2日)	6伝染病の症状を詳記したものを作成し,医師の診察に供す(特に漢方医のため)
3	伝染病予防規則修正	24	10	伝染病予防規則第7条改正会議ノ件ニ付各員へ御回文案(衛生局長より中央衛生会長へ照会)	前回意見の一致を見なかったため回文により意見調整
4	建議	21	6	埋葬規則御制定有之度建議	細川会長より内務卿宛
5	歯科医開業	33	20	歯科医開業等ニ付太政官へノ伺案可否之儀(16年月5日)	長と衛生局長より細川会長宛
6	予算	16	9	中央衛生会予算	13年か?
7	予算	18	19	14年度経費予算主意概略(中央衛生会?)	14年
8	会員慰勞金	18	13	中央衛生会会員慰勞金御下与之儀(12年12月)	アンデルソン,ベルツ,ブッケマに貿易銀貨500円等
9	原稿案	21	2	1月31日開会(明治14年?)のための準備原稿	中金正衡著
10	意見書	16	5	建議(中央衛生会の組織につき畠山重明等より細川会長宛)	中央衛生会の衛生局からの独立を求める意見書
参考	意見書	20	1	女医開業許否ノ議(14年6月18日)	中金正衡著